

SDGs未来都市こおりやま

令和3年度 わかもの創生会議








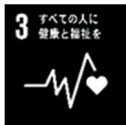



実施報告書



- 日時：2021（令和3）年11月28日（日） 13:30～14:30
- 場所：郡山市役所 特別会議室
- 主催：郡山市
- 後援：福島県教育委員会、郡山市教育委員会
- 協力：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

郡山市

目次

1	わかもの創生会議の概要	・・・・・・・・	1 p	
2	わかもの創生会議（勉強会）	・・・・・・・・	2 p	
3	わかもの創生会議（発表会）	・・・・・・・・	3 p	
(1)	Aグループ	  	・・・・・・・・	3 p
	「公共施設の活用化 ～より住みやすい街づくりを目指して～」			
(2)	Bグループ	   	・・・・・・・・	6 p
	「CO2削減に向け、私達ができること」			
(3)	Cグループ	  	・・・・・・・・	9 p
	「コロナ差別をなくすために」			
(4)	福島高専グループ		・・・・・・・・	11 p
	「エネルギーとCO2」			
4	参加した高校生の声	・・・・・・・・	14 p	
5	メディア掲載	・・・・・・・・	15 p	
6	おわりに	・・・・・・・・	15 p	

わかもの創生会議（勉強会）

1 わかもの創生会議の概要

若者のまちづくりへの参画や若者の地域への関心を高めることを目的に、高校生が「SDGs」の理念を踏まえ、地域や社会の課題解決に向けた政策・アイデアを研究し発表する「令和3年度わかもの創生会議」を開催しました。

11月28日の発表に至るまで、10月に2回、11月に1回の計3回勉強会を開催し、高校生たちが地域をより良くする政策・アイデアについて真剣に熱く議論しました。

2 参加者

今年度のわかもの創生会議は、こおりやま広域圏に立地する高等学校から参加者を募り、14の高校から14名、また、郡山市と包括連携協定を締結している福島工業高等専門学校から5名の合計19名の高校生に参加いただきました。

グループ	学校名	氏名	ふりがな	性別	学年
A	郡山高等学校	水口 瑛太	みずぐち えいた	男	2
	日大東北高等学校	沼田 紗季	ぬまた さき	女	2
	尚志高等学校	林 那夕	はやし なゆ	女	2
	清陵情報高等学校	中山 純	なかやま すなお	男	2
B	安積黎明高等学校	高信 紫花	たかのぶ すみれ	女	1
	郡山東高等学校	佐藤 叶夢	さとう かなむ	男	2
	郡山商業高等学校	今井 優希	いまい ゆうき	男	2
	あさか開成高等学校	三浦 あゆ奈	みうら あゆな	女	2
	本宮高等学校	吉田 一輝	よしだ いつき	男	2
C	安積高等学校	相樂 堯哉	さがら たかや	男	1
	郡山北工業高等学校	渡邊 紗羽	わたなべ すずは	女	2
	帝京安積高等学校	矢沢 優和	やざわ ゆうと	男	2
	郡山女子大附属高等学校	佐久間 栞	さくま しおり	女	2
	小野高等学校	宗像 孝幸	むなかた たかゆき	男	2
福島工業高等専門学校	浅川 胡桃	あさかわ くるみ	あさかわ くるみ	女	3
	荒川 桃花	あらかわ ももか	あらかわ ももか	女	3
	小松 美月	こまつ みづき	こまつ みづき	女	3
	白石 遥菜	しらいし はるな	しらいし はるな	女	3
	清藤 杏加	せいとう きょうか	せいとう きょうか	女	3

わかもの創生会議（勉強会）

○事前学習（web セミナー受講）

郡山市と包括連携協定を締結するあいおいニッセイ同和損害保険株式会社様から、高校生の事前学習用に「SDGs web セミナー」をご提供いただき、SDGs について理解を深めました。

○第1回勉強会

日時 2021（令和3）年10月16日（土） 13：30～16：30

場所 郡山駅西口ビッグアイ 市民交流プラザ 第3会議室

内容 オリエンテーション、グループワーク（地域・社会の課題をピックアップ）



○第2回勉強会

日時 2021（令和3）年10月22日（土） 13：30～16：30

場所 郡山駅西口ビッグアイ 市民交流プラザ 特別会議室

内容 グループワーク（課題の原因究明、解決策の創造、発表資料作成）



○第3回勉強会

日時 2021（令和3）年11月7日（日） 13：30～16：30

場所 郡山市役所 特別会議室

内容 発表資料作成、リハーサル



わかもの創生会議（発表会）

■発表会は YouTube で生配信！

令和3年度わかもの創生会議（発表会）は、新型コロナウイルス感染症に係る「新しい生活様式」に配慮し、会場での観覧は参加高校生の保護者に限定し、発表会の模様を YouTube で生配信しました。

こちらの QR コードから発表会を撮影した動画を視聴できます。
高校生たちの素晴らしい発表をぜひご覧ください。



■わずか3回の勉強会で作りあげたとは思えない高校生の素晴らしい発表！

4つのグループとも、特徴にあふれ具体性が高い素晴らしい発表でした。また、発表した高校生の立ち振る舞いも堂々としており大変頼もしく感じました。発表を聞いた市長も高校生のみなさんの問題意識の高さ、着眼点の鋭さに感心していました。

（1） Aグループ 『公共施設の活用化～より住みやすい街づくりを目指して』

私たちは、より住みやすい街づくりを目指して公共施設の活用化に着目しました。そのなかで地域社会の課題を3つに絞りました。老人ホームの不足、地域交流の場の減少、災害時の準備不足です。

老人ホーム不足の原因は3つであると考えています。1つ目は高齢者の人口が増加していることです。2つ目は介護職員が不足していることです。3つ目は老人ホームに行きづらい、入れない人がいることです。主な原因の一つに介護サービスを受けることに抵抗を感じている高齢者がいることがあげられます。

2つ目の地域交流の場の減少の原因は、SNSの普及によって地域の人とのコミュニケーションをとる機会が減ってきていることだと思います。また、コロナ禍により外出することが制限されたことも考えられます。実際私たちも学校に行けず自宅で過ごすようになり、コミュニケーションをとることの大切さが分かりました。

3つ目の災害時の準備不足は、実際に災害に遭った人や避難した人などの声を聞くと、市から提供される物資にも限りがあるため、日頃から個人で準備しておいたほうが良いと聞きます。このグラフをみると、実際家庭で防災グッズの備蓄や保管をしている人は全国的にみても半分を切っていることが分かります。

次に、これらの課題を解決するために考えたことは介護施設の公有化です。介護施設を公有化するメリットは、介護士や介護施設の拡充、地域の交流の場になること、災害時の避難場所にできることだと思います。介護施設、介護職員の公有化のメリットのひとつに規模を拡充できることがあげられます。これ



によって、民間で行うより安定し充実した介護サービスを提供することができると考えています。また、介護職員を公務員化することにより、保障や所得の安定、介護士を人気のある職業にする手助けになると考えています。

2つ目の地域交流の場になるメリットは、地域の行事に参加しやすくなること、地域の声を聞きやすくなること、各年齢層に合わせたイベントを開催することができると考えました。介護施設を公有化することで幅広い年齢層の人が施設を活用することができます。例えば、学生向けに自習スペースの設置、一般人向けに会議室など自由スペースの設置、高齢者向けにスマホ教室や軽い運動を行うイベントを開催することによって地域交流を増やすことができます。

3つ目の災害時の避難場所にできるメリットは、避難グッズを常備しておくことができ、避難時に役立つと考えました。

これらの問題を解決するために、まず私たち一人ひとりができることは何か考えました。1つ目は、挨拶とボランティアです。積極的に自ら挨拶をし、ボランティアなどにも率先して参加しようと思います。

2つ目は避難グッズを常備することです。まずは、最低限のものから準備しておこうと思います。



最後に、課題解決をすることで達成できる SDGs は、ゴール3の「すべての人に健康と福祉を」、ゴール11の「住み続けられる街づくりを」、ゴール13の「気候変動に具体的な対策を」です。

今回の活動を通して地域が抱える問題についてグループで話し合い、自分たちなりに色々な案や考えを導き出すことができました。これからも課題解決のために自分たちにできることを積極的に取り組んでいこうと思います。

品川市長 コメント

ありがとうございました。まず数字、データに着目したこと素晴らしい着眼点だと思います。今後も色々な課題について、数字をベースに考えてもらいたいと思います。今では、国が集計した統計データがウェブに公開されていますから、そうしたものをベースに問題について取り組んでいってください。

郡山市の場合、18歳人口が約3,200人、0歳児が約2,200人と、18年間で1,000人ほど減っています。少子高齢化がますます進むなか、少ない現役世代の人口で、ますます増えていく介護を要する高齢者をどうサポートしていくのか今後一緒に考えていかなければなりません。これは高校生のみなさんが就職した後さらに深刻になっていきます。

福祉については国の考え方も措置からサービスに変わってきています。後で調べてみてください。また、災害時に関しては、今までは行政サービスとして避難のお手伝いをしていましたが、今は、自分でどこに避難したらいいか考えるようになりつつあります。最近の気候温暖化による大きな災害になると、避難場所にたどり着けない状況が出てきています。つまり、災害時は行政サービスから行政サポートに市民と行政の関係が変わってきています。今後、次の研究を深めるとき、「措置からサービスへ」、「サービスからサポートへ」の2つのキーワードを調べてみてください。ありがとうございました。

発表資料(Aグループ)

令和3年度 わかもの創生会議

『公共施設の活用化』
～より身近な新しい顔ぶれを目指して～

1

ムグループ
 東北福祉大学 中山 悠(リーダー)
 日本大学東北高等学校 高田 裕季
 郡山高等学校 水口 誠次
 東北福祉大学 伊 穂夕

課題を発生させている原因

3

(1)老人ホームの不足

- 高齢化により、高齢者が増えている
- 介護職員の不足
- 老人ホームに行きづらい、入れない人がいる

課題を発生させている原因

5

(1)老人ホームの不足

- 高齢化により、高齢者が増えている
- 介護職員の不足
- 老人ホームに行きづらい、入れない人がいる

課題を発生させている原因

7

(3)災害時の準備不足

- 支援物資が少ない
- 避難場所がわからない

課題を解決する私たちのアイデア

9

介護施設の公有化！！

介護士や介護施設の拡充

11

- ・ 介護士や介護施設が増やしやすくなる
- ・ 介護士の公務員化による地位の向上を図る

私たちが考える地域、社会の課題

2

(1)老人ホームの不足
(2)地域交流の場の減少
(3)災害時の準備不足

介護サービス事業所における従業員への過剰な状況

〇 介護サービス事業所における人手不足は深刻な状況にある。過剰な業務負担、人手不足による業務の遅延、サービスの低下、従業員の離職などが懸念されている。

従業員(過剰)の状況

従業員(不足)の状況

課題を発生させている原因

6

(2)地域交流の場の減少

- SNSの普及によるコミュニケーションの減少
- コロナ禍による外出自粛

図表4) 防災グッズの備蓄や保管をしていますか？
全国平均48.8%、北海道で53.6%が最も、関東が31.5%と最も低い。

順位	地域 (N)	備蓄・保管率 (%)	人数 (名)
1位	北海道 (N=130名)	53.6%	73
2位	関東 (N=2,329名)	51.2%	1,199
3位	中部・近畿 (N=433名)	49.0%	229
4位	北陸 (N=552名)	47.2%	282
5位	中部 (N=80名)	46.1%	39
6位	東北 (N=137名)	45.6%	81
7位	四国 (N=99名)	43.5%	29
8位	中部 (N=143名)	38.5%	55
9位	九州・沖縄 (N=158名)	31.5%	82

※ 全国平均は、防災グッズを備蓄・保管している人が全体の48.8%です。

メリット

10

介護士や介護施設の拡充
地域の交流の場になる
災害時の避難場所になる

地域の交流の場になる

12

- ・ 地域の行事などに参加しやすい
- ・ 地域の声を聴きやすくなる
- ・ 各年齢層に合わせたイベントの開催

例えば... 13

- 学生向け
 - 自習スペースの設置
- 一般人向け
 - 自由スペースの設置
- 高齢者向け
 - スマホ教室や軽い運動などのイベント

災害時の避難場所にてできる 14

- ・避難グッズを常備しておく
(食料や飲料水、懐中電灯、毛布、服救命ボートなど)

ちなみに... 問題解決のためまず一人ひとりができること 15

- ① 挨拶・ボランティア
- ② 避難グッズを常備する

課題解決により達成に繋がるSDGs 16

- ・ゴール8 すべての人に健康と福祉を
- ・ゴール11 住み続けられるまちづくりを
- ・ゴール13 気候変動に具体的な対策を



(2) Bグループ 『CO2 削減に向け、私達ができること』

私たちが考える地域、社会の課題は二酸化炭素の排出量が多いことです。そこで、二酸化炭素の排出量を多くしている3つの原因とその解決策を考えました。

まず、1つ目はプラスチック排出量が多いことです。2つ目は森林の減少です。3つ目は食品ロスです。

次にプラスチック排出量の多さを解決するアイデアです。1つ目は回収ボックス増設です。現状では一部のスーパー等にしかありません。回収ボックスを各地に設置することで、プラスチックの回収率が良くなると考えています。

2つ目は、町中にゴミ箱を設置することです。現状ではコンビニなどの店舗の中にしかゴミ箱がありません。そのせいで公園や歩道などにプラスチックなどがポイ捨てされていることがよくあります。

次に、森林の減少を解決するアイデアとして、植物に触れる活動が増えればよいと考えました。町中の植物が少なく、森林減少を身近に感じていない若者が多いです。解決する方法として、植物を植えるイベントの企画や、小中学校で森林減少の問題についての教育をすることで解決につながるのではと考えました。

次に食品ロスを解決するアイデアの1つ目として、公共冷蔵庫があげられます。公共冷蔵庫とは、食べることができるのに廃棄してしまう食品を冷蔵庫に入れて、それを欲しい人が無償で受け取れるという冷蔵庫です。海外では実施されている国も多く、日本でも岡山市などで始まっています。アイデアの



2つ目として、フードシェアリングサービスがあげられます。フードシェアリングサービスとは、飲食店で廃棄されてしまう料理を、アプリやサイトに加入している店が消費者に提供できるというサービスです。まだまだ知名度が低く、参加店舗が少ないのが現状です。解決策として、市がそのサービスを管理し、参加店舗をまとめて公開することで市民がもっと使いやすくなり、参加店舗が増えると考えています。

問題解決のために一人ひとりができることとして、まず1つ目にプラスチックの排出量を抑えるために回収ボックスを活用する、2つ目に、森林の減少を防ぐため自分の家に植物を植えたり、地域の周りの植物を保護する、3つ目に食品ロスを減らすために家庭での廃棄食品削減などを考えました。

問題解決のために市ができることは、まず、市が空き家を買取り、その場所を使用して植物を植えるイベントや回収ボックスの設置などをして、SDGs を身近に感じられるまちづくりをするのが良いと考えています。また、リサイクル活動などの広告を作りイベントの告知を行うことで市民は楽しみながらCO2削減に参加できると思います。

これらの解決策を広める方法として2つの案を考えました。1つ目は風刺画を作ってCM化したり、ポスターや看板で地域全体に広めることです。まずは、地域の人たちに社会の現状を知ってもらうことが大切です。悲惨な現状を知ることによって一人ひとりの意識が変わると思います。



課題解決により達成につながる SDGs はプラスチック排出量を抑えるがゴール 13、14、15、植物を増やすがゴール 13、15、食品ロスを抑えるがゴール 12 です。

今回の活動を通して、地域が抱える課題についてたくさんの人たちと様々な意見を出し合い、話し合い、解決に向けて協力することの重要性を学びました。SDGs 未来都市である郡山をさらに盛り上げていけるよう私たち若い世代から活動の輪を広げていきたいと思いました。

品川市長 コメント

(発表で提案したことを) みなさん通学している学校でやってみてはいかがでしょうか。市役所も問題提起いただいたようなことを自分ごととして取り組むようにしておりますので、みなさんも提起された問題に工夫して取り組んでいただければと思います。

それから、一番難しい問題をご指摘いただきました。空き家問題、これが私たちも課題としているところです。つい最近も、とある大きなお屋敷の空き家、相続している方が2人いまして、一人は解体したいと、もう一人は解体したくないということでそのままになっているのです。これは法制度の問題です。どうやって同意を得るか、そこが難点になっていて、もう少し強行法規のような空き家に対するルールができないかと国でも考えられています。

みなさん通学している学校でどこまでできるか、何が難しかったかみなさんが自ら体験していただければと思います。恐らく色々な課題に直面すると思います。法律あるいは色々な習慣など、もし、みなさまからある法律を変えるべきだということがありましたら、提案をお待ちしています。

発表資料(Bグループ)

SDGs未来都市こけし作り

令和3年度 わかもの創生会議

「CO2削減に向け、私達ができること」

Bグループ

あまか製菓専門学校 二宮 次中会 (コケシ)

ひらね高等学校 佐藤 外香

安芸高松高等学校 高橋 梨江

尾山高等学校 今井 優希

本郷高等学校 古三 一輝

私たちが考える地域、社会の課題

CO2排出量が多い

課題を発生させている原因

1. プラスチック排出量が多い
2. 森林の減少
3. 食品ロス

プラスチック排出量の多さを解決するアイデア

- 1 **回収ボックスの増設**
現状 回収ボックスが一部のスーパーマーケット等にしか無い。
解決方法 回収ボックスを他の各地にも設置
- 2 **町中にゴミ箱を設置する**
現状 コンビニなどの店舗の中しかゴミ箱がない
解決方法 **ゴミ箱の数を増やす**

世界のリサイクル率

ヨーロッパの分別を参考にする
粗かな分別を当たり前にする

森林の減少を解決する私たちのアイデア

- 1 **植物に触れる活動**
現状 町中の植物が少ない
森林減少を身近に感じていない若者が多い
解決方法 植物を植えるイベントを企画する
小中学校で**森林減少の問題についての教育**

食品ロスを解決する私たちのアイデア

- 1 **公共冷蔵庫**
現状 一人あたり年間一部分の食品ロスがある
解決方法 公共冷蔵庫を設置
- 2 **フードシェアリングサービス**
現状 参加している店舗が少ない
解決方法 市でフードシェアリングに参加している店舗をまとめて、市民が使いやすい環境を整える

問題解決のためまず一人ひとりができること

1. 回収ボックスを活用
2. 自分の家に植物を植えたり、地域の周りの植物を保護
3. 家庭での廃棄食品削減

問題解決のためまず市や地域ができること

1. 空き家を買収取る
2. 植物を植える地域イベントを企画する
3. 回収ボックスの設置
4. リサイクル活動などの広告を作る

これらの解決策を広める方法

1. 風刺画を作って、CM化!
ポスターや看板で地域全体に広める
2. 空き家を市が買収取り
→回収ボックスの設置場所・イベントの会場にする

課題解決により達成に繋がるSDGs

プラスチック排出量を抑える⇒

・植物を増やす⇒

・食品ロスを抑える⇒

(3) Cグループ 『コロナ差別をなくすために』

僕たちが考えたテーマはコロナ差別を無くすためにどうするかです。コロナ差別で苦しんでいる人たちのことを思い、なぜこのようなことが起きているのか、無くすことはできなくても少なくするためにどうすれば良いのかを考えてきました。

私たちが考える社会の課題は、コロナに対する差別、医療従事者への対応、感染者への対応、SNSの使い方です。課題を発生させている原因は主に2つです。1つ目はコロナに関する情報の正確性です。1年ほど前、電波からコロナが感染するという話を聞いたことがありませんか。さすがに嘘だとわかりますが、デマ情報が流れることによって正しい情報がわかりづらくなっていると思います。2つ目はコロナに対する偏見です。コロナというと、後遺症、感染力が強いといったイメージがあるのではないのでしょうか。それ以上にコロナのせいで生活が制限されることによって、より一層コロナに嫌悪感を抱くようになったのではないのでしょうか。また、コロナ差別の具体的な事例として、こどもに対するいじめ、感染者の住居や勤務先の詮索などがあげられます。



これらの課題に対して3つのアイデアを考えました。1つ目にSNSの使い方の改善です。改善策として、公共施設などで差別に関する標語を入れたポスターを貼ることや、CMに標語を取り入れ流すことで目に留まりやすくなり効果があると思います。2つ目は差別の疑似体験をすることです。疑似体験の機会として、学校での薬物乱用防止教室のように、SNSでのコロナに関する批判や差別についての動画を視聴することを考えました。3つ目はコロナに関するマスコットキャラクターを作ることです。1つ目のアイデアやその他イベントやグッズにも活用でき効果的だと思います。

次にこれらのアイデアの効果についてです。SNSの使い方を見直すことや疑似体験をすることで、誹謗中傷が減ると考えました。またコロナに関する誤った情報に惑わされることなく正しい理解ができるようになり、偏見が減ると考えます。また、マスコットキャラクターを活用することでコロナに対する意識の変化に繋がると考えました。

問題解決のためまず一人ひとりができることとしては、手洗い、うがい、マスク着用などの基本的な感染症対策を徹底することと、コロナウイルスや医療従事者、感染者に対しての意識を変えることだと思います。



課題解決によって達成につながる主なSDGsのゴールは、ゴール3「すべての人に健康と福祉を」、ゴール10「人や国の不平等をなくそう」、ゴール16「平和と構成をすべての人に」だと考えました。

一人ひとりコロナに対する考え方はあると思いますが、一人ひとり対策をしっかりと行い、人の意見を尊重し生活していきましょう。

品川市長 コメント

コロナウイルス感染症が蔓延したときこんなことを個人的に考えました。インフルエンザにかかった場合、学校や職場に届けます。しかもオープンです。ところがコロナに関しては同じウイルスなのに、プライバシーということと言わない、本人もコロナに感染したことを公にしない、という違いです。コロナウイルス感染症がどういう経路でどのように感染するのかよくわからなかったのですが、今では、誰でも感染するものなのだとようやく分かってきて、かなり差別的な事象は減ってきたと思います。ただ、ま

だまだ不幸な事態は消えていないと考えます。ですから、もう一度、コロナウイルスとは何だ、とお互いに勉強して、最低限の知識をみんなが持つことによって、不安に基づく誤った情報は減っていくのではないかと思います。

それから、自分が感染する可能性があることを認識することによって、インフルエンザに罹患した場合と同様にそれぞれの立場を尊重することができるのではないかと思います。今回の発表を契機にコロナウイルスに関して深堀りをしてください。非常に大事なところを着眼いただいたことに敬意を表します。ありがとうございました。

発表資料(Cグループ)

SDG GOALS
 令和3年度 わかもの創生会議
 「コロナ差別をなくすために」

Cグループ
 道の駅わかものセンター
 社会福祉学社
 郡山北高等学校
 郡山女子大学
 社会福祉学社
 社会福祉学社

実行 藤田 (リーダー)
 副実行 高友
 監修 松本
 実行委員 松本 悠太
 実行委員 松本 悠太
 実行委員 松本 悠太



私たちが考える社会の課題


- ・ コロナに対する差別
- ・ 医療従事者への対応
- ・ 感染者への対応
- ・ SNSの使い方

私たちが考える社会の課題



課題を発生させている原因 (なぜ?)

1. コロナに関する情報の正確性
2. コロナに対する偏見



コロナ差別に関する事例

【コロナウイルス】と「差別」に関する事例

- ・ 差別や偏見が原因で感染者が増える
- ・ 差別や偏見が原因で感染者が増える
- ・ 差別や偏見が原因で感染者が増える



課題を解決する私たちのアイデア

1. SNSの使い方の改善
2. 差別の疑似体験
3. マスコットキャラクターの作成・活用



私たちのアイデアによる効果

1. 差別の減少
2. コロナ情報の正確性向上
3. コロナに対する意識の変化



問題解決のためまず一人ひとりができること

1. 基本的な感染症対策 (手洗い、うがい、マスク着用など)
2. 意識を変える



課題解決により達成に繋がるSDG S (解決される主な課題)

- ・ ゴール3 持続可能な健康と福祉
- ・ ゴール10 人や国の不平等をなくそう
- ・ ゴール16 平和と公正をすべての人に



まとめ

皆さんの考え方は変わったでしょうか？
 私たちのこれからのより良い未来のためにできることを一人一人考えていく必要があると思います。

ご視聴ありがとうございました！



(4) 福島工業高等専門学校『エネルギーとCO2』

※福島高専の生徒さんは後期中間試験期間と重なってしまったため、同校の芥川副校長が代理で出席し、事前に収録した動画（プレゼン資料に生徒さんの発表音声をのせたもの）を上映する形での発表となりました。

今、世界各国で電気自動車化が進行していて、2030年にはシェア率50%以上になると言われています。ガソリン車の資源である石油は限りあるものと考えられていますので、大手自動車メーカーは電気自動車化に力を入れています。

ガソリン車の1km（走行）あたりの二酸化炭素排出量を紹介します。表に示したとおり、燃費のいいガソリン自動車ほど年間の二酸化炭素排出量が少ないことがわかります。

電気自動車のメリットについて説明します。電気自動車には、走行中に二酸化炭素を排出しないため環境に優しいこと、静かに走行できること、減税・補助金が適用されること、ガソリン代がかからないことなどたくさんのメリットがあります。社会でもみんなが電気自動車を使用すれば、環境が良くなるというように認識されています。

しかし、電気自動車のモーターを駆動させるためのバッテリーに蓄える電力は火力発電から作られたものであるため、電気自動車の過度な普及は大量の二酸化炭素の排出に繋がってしまうのです。

ここで、電気自動車の1km（走行）あたりの二酸化炭素排出量をみていきましょう。表をみると、二酸化炭素排出量はガソリン車、ハイブリッド車、電気自動車でそこまで大きな差がないことがわかります。

では、どのようにすれば効率よく発電できるのでしょうか。効率の良い発電方法として原子力発電があります。火力発電では化石燃料を燃焼させているのに対し、原子力発電ではウラン燃料の核分裂の熱を利用して発電します。核分裂の仕組みはこちらです。このようにウランが増え続け核分裂が何度も行われるため少ない燃料でたくさんの電気を生産することができます。一方で原子力発電所で扱っているウランはたくさんの放射線を出す力があります。そのため5重の壁で守られていたり、地震対策として岩盤に直接建てられていたりと様々な安全対策が施されています。しかしながら2011年に福島第一原子力発電所で水素爆発事故が発生したように、大きなリスクがあるのも事実です。

電気自動車もガソリン自動車もどちらも二酸化炭素は排出されてしまいます。また、原子力発電も効率がいいのですが、リスクもあります。そのため、電気生産を再生可能エネルギーに変えることで社会全体のエネルギーをクリーンにしましょう。

品川市長 コメント

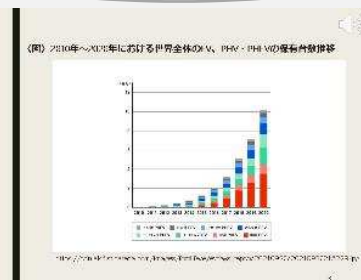
A, B, Cグループをはじめ、福島高専のグループのみなさんも、日常生活や学習するなかでの問題意識から研究発表されたと思います。今持った好奇心、疑問というものの火を消さないでこれからも学習を続けて行って欲しいと思います。



発表資料(福島高専)

エネルギーとCO₂

3年 2組 総合実習
 発表者: 佐藤 心菜, 佐藤 心菜, 佐藤 心菜



ガソリン車のCO₂

■ ガソリン自動車のCO₂排出量は...

走行距離	1kmあたりの燃費	1kmあたりのCO ₂ 排出量	備考
10km/L	25.0%	25.0%	燃費が悪い車
20km/L	12.5%	12.5%	燃費が良い車
30km/L	7.7%	7.7%	燃費が良い車

→ 燃費がいいと年間のCO₂排出量が少ない!!

電気自動車のメリット

- 環境に優しい
- 静かに走行
- 減税・補助金が適用
- ガソリン代がかからない

電気自動車ってほんとにエコなの？

実際...

電気自動車が発行される過程でCO₂が排出されている!

↓

電気自動車が普及しすぎると、大量のCO₂が排出される!

電気自動車を動かすのに必要なCO₂

■ 日本の発電方法は1kWhの発電に電気自動車1台相当のCO₂を排出している

発電方法	1kWhあたりのCO ₂ 排出量
火力(石炭)	820g
火力(天然ガス)	490g
火力(石油)	570g
原子力	12g
水力	100g

火力発電はCO₂の排出量が非常に多く、原子力発電はCO₂の排出量が非常に少ない。

効率の良い発電方法は？

効率が良い発電方法は...?

原子力発電

原子力発電

■ 少ない燃料でたくさん発電できる

リサイクルの廃棄物、核廃棄物の処理が課題である

核分裂が止まらなければ、制御棒で制御

原子力発電

■ 原子力発電が伸びている理由は、多くの人の賛成による。 → 大賛成!

の長所

の短所

■ 電気自動車化をすすめるだけでなく、社会全体の電気生産を再生可能エネルギーにシフトチェンジしましょう!

ご清聴ありがとうございました☺

最後に、品川市長、福島高専芥川副校長から、地域をより良くするための方策を熱心に考え発表した高校生へメッセージが送られました。

品川市長からは、

「みなさんの発表を伺って、私自身の高校生時代を振り返って、非常に感慨深いものがありました。学習の過程で、よく時間を生み出して今回の発表に取り組んでいただいたなと感謝し、敬意を表したいと思います。

年の功で申し上げますと、SDGsの17のゴールのために何をすべきかではなくて、私たちが日常行っていることがどれに当てはまっているのか逆算してみるのも良いのではないかと思います。それから普段の学習のなかでの好奇心を大事に伸ばしていただければと思います。

高校生の高い問題意識や鋭い着眼点を活かし、まずは、それぞれの学校生活のなかで、課題改善に向け行動を起こしてください。」

とのメッセージが送られました。

福島高専芥川副校長からは、

「SDGsで求められることは、まず自分事として考えること。2つ目はできることから行動すること。最後が一番難しいことですが、できることを習慣化することです。SDGsに関してこうしたほうが良いと思うことはまず自分が行って、それを習慣化してください。」

とのメッセージが送られました。



参加した高校生の声

■ 高校生の感想をご紹介します!

様々な学校の人と SDGs について話す機会はほとんどないので、とても有意義な話し合いになりました。知らなかった問題を調べるきっかけにもなりました。

最初は他校の人と話せるか不安があったが、みんなで意見を出し合ううちに不安はどこかへ行き、有意義な時間を過ごせました。このような機会で自分が発言する場をただけて自分が成長することができました。



色々な人の考えを聞いて、自分ももっと色々なことに目を向けていこうと思いました。将来、地域に携わるような仕事についてみたいと思うようになりました。

身近な課題について、考えることのできた良い機会となりました。また、他校の人と関わることができ楽しかったです。人と会話するのが苦手なのが、少しでも改善できたのでよかったです。

SDGs について、地域が抱えている問題を通して知ることができたので自分にとって良い経験になったと思う。あまり自分から意見を言えないのでふせんに書くことがすごく助かった。また、他校に友達もできて、とても良い体験ができた。参加して本当に良かったと思う。

メディア掲載

令和3年度わかもの創生会議は下記のメディアにおいて報道されました。

【新聞】

福島民報 2021（令和3）年12月1日（水） 朝刊

【テレビ】

放送日 2021（令和3）年12月5日（日） 17：55～18：00

テレビ局 KFB 福島放送

番組名 郡山市週間トピックス

おわりに

新型コロナウイルス感染拡大により、当初の予定を大幅に変更しての開催となった令和3年度わかもの創生会議。当初の予定では、高校生の夏季休暇期間に勉強会をスタートし9月に発表会を開催する予定でしたが、度重なる延期により10月に勉強会をスタートし、11月に発表会を開催することができました。

日程の変更に加え学校の勉強、部活動で大変ななか、参加する高校生全員が非常にポジティブに、熱心にわかもの創生会議に参加いただき大変嬉しく思いました。初めて会う他校の高校生とすぐ打ち解け、活発にグループで議論し、限られた時間のなかでプレゼン資料を手際よくまとめる高校生たちの姿は非常に頼もしく恰好良かったです。少しでも高校生をサポートしたいと思っていましたが、私がいつも高校生のみなさんに助けられていたなと思います。

改めて、参加いただいた高校生のみなさまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。また、ご協力いただいた学校関係者の方々や保護者のみなさまにも感謝申し上げます。

わかもの創生会議に参加したことが、ほんの少しでも財産となり高校生たちの将来に役に立つことができれば幸いです。参加いただいた19名の高校生たちのさらなるご活躍を楽しみにしております。

（郡山市政策開発課 事務担当 須賀）

令和3年度わかもの創生会議 実施報告書
2021（令和3）年12月発行

編集・発行 郡山市政策開発部政策開発課
〒963-8601 郡山市朝日一丁目23番7号

TEL 024-924-2021

E-mail seisaku-kaihatsu@city.koriyama.lg.jp